

27 田町まちづくり推進委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業〔課題解決特別事業〕

皆でつくる 田町防災大会

P

事業の目的

- 既に防災意識の高い人以外の人たちにも防災に関心を持っていただくきっかけとする。
- ◎住民が助け合いの気持ちを一つにして、地域内、地域間のコミュニケーションを図る。
- ◎田町地区全体の住民や各種団体が連携し一体的なまちづくりを推進する。

見込まれる成果・効果

- 子どもからお年寄りまで、楽しみながら地域住民の防災意識を高める。
- ◎顔の見える関係をつくることで、災害が発生した時はもちろん、日々の生活や地域活動が充実したものになる。
- ◎準備段階から各種団体と話し合いの場を設け、多くの住民を巻き込み連携する仕組みを構築

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ・町内アンケートの実施
- ・自主防災組織による活動（防災勉強会、避難訓練など）

動きづくり

- ・まちづくり組織の設立
- ・実行委員会による話し合い

まちづくり実践活動の姿

- ・防災大会開催
- ・住民主体によるまちづくり活動の実施（まちづくり計画に基づく活動）

D

事業の概要

－きっかけ－

- 防災出前講座 H28. 3. 18
- 町内アンケートの実施 H28. 5～6 月
（課題・良いところなどの洗い出し）
- 避難訓練 H28. 6. 12

－動き－

- 田町まちづくり推進委員会設立 H28. 6. 1
構成世帯（人）数：288 世帯（431 人）
構成町内：7つの町内会
- 実行委員会による話し合い H28. 8～
全体会：4回 各部会議：随時

人と住民の声を集める！

組織と場づくり

－実践－

○田町防災大会の実施

H28. 10. 16
参加人数：130 人

○反省会

H28. 11. 5



心肺蘇生の様子



担架運びリレー



ゴムボート早乗り

C

成果・課題

- ・事業実施に向けての話し合いを重ねるたびに事業に関わる人が増えていった。→まちづくりに関わる人の増加（役員以外の人や高校生の巻き込み）
- ・様々な特技を持った人が存在することを発見→特定の人に負担がかからないように役割分担できた。
- ・「防災」をキーワードに地域全体で一体となった取り組みを行うことができた。→各町内、住民が連携する体制をつくることができた。

A

改善点 ※実施後アンケートより

- ・参加者同士でコミュニケーションを十分に取れるようなしかけが必要
- ・一過性のイベントで終わることなく、他のテーマ「子ども・高齢者」など横へのつながりを展開していけるように引き続き話し合いの場を持ちながら、多くの人を巻き込んでいく必要がある。

28 佐野・宇津井地区まちづくり推進委員会

事業名

幻の広浜鉄道今福線沿線施設整備

P

事業の目的

幻の広浜鉄道今福線は、歩くことが前提の観光コースであり、その全体像は、殆どが山等の山間部である。このコースは距離も相当あり、男性はともかく、女性についてはコース途中のトイレ等必要不可欠の課題があった。こうした背景から、沿線に公衆トイレは皆無の状況であったが、市で自己完結型バイオトイレの設置をしてもらうこととなった。まちづくり推進委員会では、トイレ設置に伴い更に付属の周辺整備を行い、待ち時間も休憩しながらの憩いの場所提供とすることで更なる観光客へのおもてなしが重要と判断し、周辺整備を行うこととした。

見込まれる成果・効果

自己完結型バイオトイレを使用される観光客、通行人は衝立などで整備された安心できる施設で用を足し休憩できる。雨降りや長距離を歩いて疲れたときなどは、休憩所において充分休憩できる状態となった。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

市当局からバイオトイレの公衆便所を設置するとの提示を受けて、トイレを使用するにあたり周囲からの安心安全性等を考慮する必要が生じた。

動きづくり

バイオ公衆トイレ設置について各地区常会等通じて、設置経緯から使用するにあたっての回数など周知して頂き積極的に使用することを促した。

まちづくり実践活動の姿

採択された今福線沿線周辺整備について、公衆トイレが設置された平成28年10月まちづくり推進委員会の役員が手弁当で休憩所を建設した。

D

事業の概要

- ・幻の広浜鉄道今福線は、平成27年に市と協働し、シンポジウム、エクスカージョンを大成功することが出来た。この成功の裏には、各地区の努力は勿論、特に遺構が沢山残っている佐野・宇津井地区は草刈りを始めとし通路整備、公民館の受け入れ、接待等々のおもてなし、それこそ地域全員が協力して頑張ってきたことにあった。
- ・まちづくり推進委員会を母体に、事前に申し出のあった団体の観光客の方には、佐野、宇津井各分館でのお茶などの接待、トイレ休憩等対応しているが、いつ来られるか分からない観光客の方を対象にすることには限界があった。
- ・このような背景から、平成28年10月市び協力で自己完結型バイオトイレを設置していただいた。
- ・トイレを安全で安心して使用出来るようにするため、衝立の設置、待ち時間等快適に気持ちよく過ごせるよう休憩所の整備を計画、地域のまちづくりメンバーそれぞれの技量を活かし、自分たちでトイレ周辺の整備を行い完成した。



C

成果・課題

- ・バイオトイレ周辺の整備を行うにあたって、近隣住民の積極的な協力があるなど、関心の高さがうかがわれた。
- ・トイレについては、週40～50人程度の使用頻度がある。
- ・トイレ利用については、マナーのある利用をしていただいている。

A

改善点

- ・観光客を含めて使用者は、丁寧にトイレを使用しており、物の大切さを認識できるものと判断され、今福線沿線に波及すると思われる。

29 佐野・宇津井地区まちづくり推進委員会

事業名

幻の広浜鉄道今福線を含む地域の観光案内看板設置事業

P

事業の目的

幻の広浜鉄道今福線については、市においても観光資源として活用に力を入れており、さらに、佐野及び宇津井自治会が第 23 回しまね景観賞を受賞したことにより、今後更なる観光客の増加が期待される。地域としてはこれを追い風に、更なる地域発展に努めていかなくてはならない。

平成 28 年 10 月に市が設置した公衆トイレ等を含め、主な施設や名所旧跡の案内看板の設置は、観光客のみならず地元の住民にとっても施設、名所などを再認識するに有意義なものである。

見込まれる成果・効果

幻の広浜鉄道はもとより、今まで知名度の低かった名所旧跡を観光客とともに地元住民も再認識することが出来る。

地域住民も観光客が訪れることにより、沿線の草刈り等環境美化にも一層力が入るようになる。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

既存の観光案内看板には広浜鉄道今福線の記載がなく、現状の地域の観光地とマッチしていない。

動きづくり

平成 27 年開催の今福線シンポジウムから観光客が訪れるようになり、観光案内看板設置の必要性を全町民へ常会を通じて周知。

まちづくり実践活動の姿

課題解決特別事業として採択され、即時設置場所を選定、用地の確保、掲示内容について度重なる検討を加え、平成 28 年 10 月完成。

D

事業の概要

- ・平成 28 年年 5 月の強風により既存の観光案内板が破損、地域の名所旧跡等把握出来るものは皆無の状態となった。
- ・平成 28 年 10 月、浜田市観光交流課が設置した公衆トイレ等含め、佐野宇津井地区の主要な施設等の案内看板は、観光客のみならず地元の住民にとっても必要不可欠の課題となった。
- ・既存の看板は通行量の多い市道に面し設置されていたため、車を駐停車し確認するにも不便な場所であった。宇津井地区にあっては、それら案内をするための看板すら存在しない状態であったことから、佐野と宇津井を結ぶ県道（佐野波子停車場線）に面した確認しやすい場所を選定、設置することとした。



C

成果・課題

- ・観光客は勿論のこと、地域の人も看板を確認しているところをよく見かけることから効果はあると判断される。
- ・名所旧跡については看板のスペースもあり、主要なものは掲示出来たものの、その他の細かい観光地（名所旧跡）は掲示することが出来なかった。
- ・今後、看板設置場所近くにロータリー交差点の計画もあると聞き、観光客も増えると判断され観光案内看板は活躍すると思われる。

A

改善点

- ・今回設置の観光案内看板は、主要なもののみ掲示されており、今後更なる集客を図るためその他の名所旧跡についても PR する手法が必要となってくると判断される。

30 長浜地区まちづくり推進委員会

事業名 長浜みらい見える化プロジェクト

P

事業の目的

長浜地区は、住宅団地の造成等により転入者が多くなり、地域への一体感や文化を継承する心が薄れつつある。この状況を改善するため、この地域の歴史や伝統文化を再認識しビジョンを共有するため、このプロジェクトを推進する。

見込まれる成果・効果

今回策定する長浜まちづくり計画を地区住民に周知することにより、長浜の魅力や資源を自覚し、まちづくりのビジョンを共有して地域住民の一体化を図る。これを機にそれぞれの人や地域が共通の目標に向けて活躍する地域を目指す。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

住民アンケート調査の実施
地域の歴史・文化の再認識

動きづくり

策定委員会の設立
各団体の活動の調査

まちづくり実践活動の姿

課題解決事業の実施
計画の進捗状況の点検

D

事業の概要

- ・ アンケートの集計及び分析を行うと共に、課題を洗い出す
- ・ 長浜地区における各種団体の活動状況等の調査
- ・ 長浜の歴史・文化の掘り起こしと今後へ向けての展望
- ・ 地域の人口の推移と今後の傾向と対策を考える
- ・ 災害対策会議を開催し、地震による津波の際どこにどうやって避難するかを検討する
- ・ 元気なまちづくりについてワークショップを開催する
- ・ 熱田と長浜のみらいまちづくり計画を策定する
- ・ 計画の概要版を全戸配布すると同時に正本を回覧で周知する。

まちづくり計画策定委員会の様子



C

成果・課題

- ・ 長浜地区の住民約 370 人を対象にアンケート調査を実施したことにより、住民の意見を聞くことができた。
- ・ あとはこの意見を計画に反映し、絵に描いた餅ではなく、実行に移すことのできる計画にする必要がある。

A

改善点

- ・ 計画完成で終わりではなく、計画づくりはまちづくりのスタートラインという気持ちで取り組んでいく必要がある。

31 美川地区まちづくりネットワーク

事業名

美川夏まつり

P

事業の目的

- ・ 美川夏まつりをとおして、美川の元気さを浜田市内外へアピール。
- ・ 帰省客に、美川の良さを再確認してもらいUターンのきっかけづくり。

見込まれる成果・効果

- ・ 地域の活性化
- ・ 地域の人口の増加



入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ・ 帰省客に、楽しんでもらうための事業展開
- ・ 出会いの場所づくり

動きづくり

- ・ 美川夏まつり実行委員会の設立
- ・ チラシ・ポスター・SNSによる広報活動

まちづくり実践活動の姿

- ・ 各ボランティア団体や美川体協の協力を得て、他の4事業を行っている

D

事業の概要

- ・ 実行委員会（準備委員会）の開催（5月から8月の間6回）
- ・ 本年度は、花火の規制に伴い会場の変更が生じた為、経費が増大した。
- ・ 広報のポスターは、今回初の試みとして県立浜田商業高校の生徒に作成依頼。
- ・ 本事業の参加者は、実行委員会開催から収支報告会（反省会）までに、延べ300人
- ・ 当日、の出店売り上げは、例年比約10%増となる
- ・ 事業資金としては、総額約220万円（協賛金120万円、積立金50万円、課題解決特別事業50万円）



C

成果・課題

- ・ 以前より協力者が増えてきた。
- ・ 当初目標の観客動員数 3,200 人を大きくクリアし、3,800 人が集客できた。
- ・ 美川地区一体となって実施する一大イベントではあるが、定住に結びつくかは不明。
- ・ 集客人数に対して会場が狭い

A

改善点

- ・ 実行委員会の開催を早い時期から始める
- ・ 事業の広報活動
- ・ 運営資金の調達
- ・ 定住化に対しての広報活動

32 上府町まちづくり推進委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業〔課題解決特別事業〕

上府収穫祭事業

P

事業の目的

- ・町内収穫祭を実施することにより、皆さんに収穫の喜びを感じていただく。
- ・花壇、植え付け、管理、収穫など、農作物全般についての会話をきっかけに地域のコミュニケーションを図り、多くの住民や団体が連携し地域の活性化を推進する。

見込まれる成果・効果

- ・子どもからお年寄りまで、一緒に楽しみながら花や農作物をつくり、収穫することによって地域のコミュニケーションを図る。
⇒農産物の収穫の喜び ⇒「生きがい」「つながり」づくり
- ・不耕作地の解消に貢献



入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ・地域の花壇及び家庭菜園作り勉強会の実施
- ・町内アンケートの実施

動きづくり

- ・耕作地及び耕作希望者の確保
- ・採種、蓮華づくり
- ・町づくり実行委員会による打ち合わせ

まちづくり実践活動の姿

- ・上府収穫祭の実施
(上府文化祭との共同開催)

D

事業の概要

- ・JA 婦人部による勉強会
- ・花壇、菜園づくり勉強会
- ・町内アンケートの実施
(課題の掘り起こし)

【準備】

- ・不耕作地に採種、蓮華づくり
- ・実行委員会の開催
- ・場所の協力依頼
(希望者づくり)

上府収穫祭の開催

- ・平成 28 年 11 月 26、27 日
- ・参加人数：約 200 名
- ・内容：農作物の展示販売、餅まき、神楽（五穀種元等）



文化祭と
共同開催



農作物の展示販売



文化祭展示



神楽（五穀種元等）

C

成果・課題

収穫祭を実施したことによって、農作業や家庭菜園に興味がある人が集まり、地域のコミュニティの輪が広がった。

小学生などの子どもや高齢者（長寿会）の皆さんと幅広い年齢層の方々に参加、協力していただき、世代間交流をすることができた。

A

改善点

- ・家庭菜園の場所確保（整備）
- ・農作業用具の整備
- ・参加者同士のつながりづくり
⇒グループ内の交流によるコミュニケーションの更なる促進

33 下府町まちづくり推進委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

下府川を活かした地域活性化事業

P

事業の目的

- ・下府川の環境及び土壌整備を実施し、蛸の育成を行い、5～6年以内に蛸祭りを実施する。
- ・まちづくりに中間層（30～40代）の取り込みを狙い、浜田東野球クラブ（下府きずな会）を立ち上げ、率先して地域活動をする事でPRする。

見込まれる成果・効果

- ・小中学校、地域、住民によるホタル鑑賞会及び「下府川ホタル祭り」の開催
- ・下府川での環境美化意識の向上及び新しい活動への向上
- ・子供達の環境美化意識の向上及び学校との交流増加

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ・アンケート意識調査の実施

動きづくり

- ・浜田東野球クラブとしての地域活動
- ・別団体として下府大青年団の結成

まちづくり実践活動の姿

- ・下府川を活かした河川作業及び環境整備
- ・環境整備による蛸育成活動実施（3～5年内）

D

事業の概要

- ・平成28年7月より活動し、11月中旬まで河川敷整備作業実施
- ・下府川の環境整備実施に当たり、市役所が推進するアダプトプログラムに調印花の苗の植え込み及び河川敷だけではなく土手～中学校路肩近郊の草刈を実施。
- ・下府自治会内にある他の団体との交流を開始。
- ・蛸育成事業（環境整備）の実施
- ・蛸事業が成功すれば、「国府海フェス」の女性メンバーと「国府の海から下府川へのイベントロード」（仮）の実施について検討開始



C

成果・課題

- ・4ヶ月活動した中で下府川は淡水混じりなので蛸は育たないといったことや、妄想等といった意見が一部のメンバーからは言われていると聞いているが、「実行無き者に答えは語られぬ」を合言葉に、出来る小さな事から進んでいきます。

A

改善点

- ・思った以上の土壌の荒れ方だったが、今後は他団体の方からの意見を取り入れながら、蛸育成を進めていきたい。
- ・人員の確保と地域から応援される団体になる為に、SNSやケーブルテレビ等を通じてPRし、認知してもらう努力をする。

34・35 久佐地区まちづくり振興会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

- ①干し大根づくりに伴う「食品乾燥機」の設置
- ②「久佐地区案内図」看板設置

P

事業の目的

・干し大根づくりについては、廃校前から「久佐っ子畑」を通して、子供から高齢者まで地域住民を巻き込んで一体となって取り組んで来たのが原点にある。干し大根を活かした「食」は多岐に亘り、敬老会、節句弁当、文化祭、大根収穫祭に欠かせない食材のひとつになっています。

・久佐地区案内図については、地区全体を網羅した案内板がなく、今春、特老施設が新設され県内外からの入り込み客の利便性を確保する。

見込まれる成果・効果

- ・干し大根は、これまで通り諸行事において「食」の面で活かしていく。
- ・地区案内図は、入り込みの利便性はもちろん、観光案内含めて人の往来が期待される。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ・干し大根づくりは、自然干しも気候に左右され温暖化のためカビが発生した。

動きづくり

- ・自然干しと並行して、「食品乾燥機」を設置することでカビの問題が解決した。

まちづくり実践活動の姿

- ・振興会・公民館と連携を図り取り組んでいる。近年、「いわみん」の参画で、他地区からの参加が増加している。

D

事業の概要

- ①干し大根づくりに伴う「食品乾燥機」の設置
- ・金城郷土食「干し大根づくり」体験 H28.12.3



干し大根づくり作業



干し大根のれん



乾燥機にて乾燥



カレーライスで団欒

- ②「久佐地区案内図」看板設置

※地区案内図については、現在製作中

C

成果・課題

- ・自然干しで取り組んだあと、乾燥機に入れる。
- ・乾燥器の設置でカビの問題が解決できた。
- ・今年も、放置しておけば温暖化のためカビの発生が生じていたと考えられる。
- ・乾燥器の設置に伴い商品化できた成果は大きい。
- ・現在、大根の干し場は民家の軒先を借用して取り組んでいるが実情。

A

改善点

- ・大根の干し場を確保することが急務と考えている。
- ・乾燥器については、大根に限らず、他の野菜、根菜、果実を活かした活用策を考える。

36 今福地区まちづくり推進委員会

事業名

- ①土曜夜市、「もやい市」1周年記念祭
- ②さつま芋栽培の品質向上、コストダウン

P

事業の目的

①第1期まちづくりの集大成として、地域の利便性の向上、にぎわいの創設を目途に産直「もやい市」(2015/9月)開設し、土曜夜市、1周年祭を企画しPRの拡大を図る。

②さつま芋栽培については、時期的に29年度事業実施の予定である。

見込まれる成果・効果

- ①PRイベント開催することにより、より存在の知名度を上げ「もやい市」ファンを増やして行く。
- ②については、良質良品の増産に努め、健全経営につなげたい。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけ

地区内唯一のスーパーがなくなり、5キロ圏内無店舗地域となった。

動きづくり

利便性の向上、にぎわいの創設を図るを目的に、産直市を開設。

まちづくり実践活動の姿

産直には「もやい市」と名付け毎月、第1,3土曜の2回の開催を実施。

D

事業の概要

ア、土曜夜市の開催 2016/7/16、PM5:00 オープン、おりしも雨天の予報、アトラクションは屋内で、バザーは会場入り口周辺とし。アトラクション6演目、バザー5店舗、来場者約300余人(推測)でにぎわった。



イ、「もやい市」1周年記念祭 2016/9/17(土)、午前10:00 オープン、通常の産直市と同時開催。アトラクション5演目2回公演、バザー5店舗、来店者300余名(推測)すべてで完売。開設以来、1500人目のお客さまへ記念品の贈呈のパフォーマンス。



C

成果・課題

2つのイベントを通して、それなりに来客もあり、周知効果はあったと感じている。

しかしイベントの来客は、一時的イベント目的がほとんどで、今後の継続がないとすぐに忘れられてしまう性質だと感じる。

A

改善点

今後も時折のパフォーマンスを折込みながら地道な継続こそが目的に添える方策だと考える。

あわせて産直中身の充実を図る努力こそがより必要不可欠と考える。

37 美又湯気の里づくり委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

新商品開発・販売促進事業

P

事業の目的

- ・美又地区では、地元で設立した NPO 法人を中心に「地域まるごと 6 次産業化」に取り組んでおり、できた商品を美又温泉国民保養センターの一角で産直市（みまたの市場）を開設し販売している。しかし、まだ十分な利益を上げるまでには至っていないため、新たな商品開発と魅力ある売り場を作ることで、収入の増を図る。

見込まれる成果・効果

- ・商品と売り場を充実することで、収益の増を図り、それに伴い従業員、製造に係る雇用の増も見込む。また、地元産品を使用することで生産者の収入増を見込む。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ・美又温泉を核としたまちづくり活動の開始。

動きづくり

- ・観光客をターゲットとした特産品の開発。
- ・地元産品を使った 6 次産業化の実践

まちづくり実践活動の姿

- ・特産品や地元野菜を販売する産直市の開設・運営。
- ・新たな加工品の開発。

D

事業の概要

- ・新商品として、豆乳アイスクリームを開発することが決定し、魅力ある商品にするためパッケージ開発を行った。地域の女性を中心にパッケージを考え、パッケージを完成させた。
- ・新たな商品開発に着手し、黒米の粉を使ったスノーボール（クッキー）の商品化を目指して試作中。
- ・産直市の面積が 20㎡と手狭であり、多くの商品を並べることができなかった。アイスクリームを販売することになれば冷凍庫が必要となり、現状では置くことができないため、売り場の改良を行った。

C

成果・課題

- ・試作品の試食の感想はどれも良くできていて好評であるが、商品の製造に慣れていなく生産コストがかかりすぎて利益が上がらない。
- ・売り場が 6㎡広がり、ゆとりができた。
- ・販売は現在みまたの市場が中心となっている。それ以外の販路確保が課題である。

A

改善点

- ・製造時間の短縮を図り利益を上げる
- ・生産コストを下げるのも必要であるが 6 次産業化の原則で、地元の食材を極力使い安心安全な商品を製造販売して行きたいと思っています。

38 雲城まちづくり委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

ハッチョウトンボ生息地を活用した交流人口増加を図る事業

P

事業の目的

- ・地域には島根県下でも有数の絶滅危惧種Ⅱ類のハッチョウトンボの生息地が確認され、地域住民が「ハッチョウトンボを守る会」を設立して保護・イベント活動に努めているが、交流人口増には生息地の観察環境整備やPRが必要。
- ・環境活動を通じた地域住民意識の向上。

見込まれる成果・効果

- ・地域住民等を巻き込んだ保護活動組織を設立しての生息地の整備は、地域住民の環境への意識向上を図るとともにPR活動の一役を担える。
- ・生息地近隣へ生理的利便施設（トイレ）の設置は観察来場者の増加を図れる。
- ・PR商品の開発・制作・販売は、PRとともに販売金の一部が環境活動へ活用出来る。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ・住民等が参加できる活動計画
- ・専門家による生息域や規模の確認公表
- ・公民館活動への参加

動きづくり

- ・地域住民等を巻き込んだ保護活動組織の設立
- ・PR商品の考案・制作やホームページ等の開設

まちづくり実践活動の姿

- ・生息域の観察場整備
歩道水路の整備、トイレ設置、草刈りなど
- ・PR商品制作販売による売上金の環境活動への活用
- ・活動をホームページ等で更新

D

事業の概要

- ・観察場の整備：生息域の草刈りや整備の協働作業、観察者の利便性や環境保護のため仮設トイレを設置
- ・他組織との連携：公民館、小中学校、高校、守る会、行政、しまね自然と環境財団他・・・トンボ環境整備検討会
- ・グッズ販売：域内組織（KBO66）作成のグッズ（4種）を販売した売上げを環境整備や保全に活用
- ・広報活動：ホームページの開設やフェースブックへの記載、行事への参加、観察会等の共同開催



C

成果・課題

- ・グッズ制作講習を公民館活動で行った
- ・多数の人々との協働活動として「妖精の守人プロジェクト」を立ち上げた
- ・地域行事（さざんか祭り）でのグッズ販売は地域住民のトンボに関する意識の向上が図れた
- ・新聞等による活動紹介を県外からの交流人口増の呼び水に

A

改善点

- ・グッズ制作講習の対象を拡大
- ・実践的な保護活動を公民館共催で進める
- ・生息域内の多種の生物へも目を向ける活動
- ・人と環境、環境と生物、環境問題との結びつきを強める活動
- ・環境保護に必要な「ひと・もの・かね」について再考する機会

39 縁の里づくり委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）
地域振興施設「小波の郷」
菜再さんさい産直市場の商品魅力アップ事業

P

事業の目的

地域振興の中心となる施設に位置付けている「菜再さんさい産直市場」をさらに充実し安定した経営にするために備品整備や商品パッケージの開発等を実施し、魅力ある農産加工品を通年販売できるようにする。

また、地域外へのPRを行い、集客力を上げる。

見込まれる成果・効果

商品の充実とPRにより、来客数が増となり、それに伴い販売金額の増を見込み安定した経営を行うことで、農家に外貨を還元し、農業を中心とした高齢者の社会参画の促進、さらには農地保全に繋がることを期待する。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり
《住民アンケートの実施》
・特産品開発や都市交流を中心とした地域活性化をする方針を決定

動きづくり
《産直市場の開設》
・地域農産物の売り場確保
・特産品の開発・製造（米粉パン等）

まちづくり実践活動の姿
《他団体との連携》
・民泊等の都市交流事業と連携し、外貨獲得の好循環を作る

D

事業の概要

- ・菜再さんさい産直市場のパソコンを更新し、POSレジシステムと連動させた商品管理を行うことで、運営の効率化を図る。
- ・各種のぼり旗を作成し、交流先の広島市内等でもPR活動を行い、集客増を図る。
- ・地域特産品であるワサビの保存が課題となっており、保冷庫を購入することで通年出荷を加納にし、産直市場の商品の充実化を図る。
- ・フキを加工し商品化を行うため、パッケージ開発を行い、産直市場の商品の充実化を図る。
- ・米粉パン製造を行っている場所に電気メーターを設置し、これまで不明確だった料金を明確化する。

C

成果・課題

- ・地元特産品販売で注文やリピーターのお客が増えた。
- ・毎日営業が目標であるが人件費等営業コストが高く、もう少し販売高を増大することが課題

A

改善点

- ・さらなる魅力ある商品の品揃え
- ・他の店に売っていないこだわりの商品販売
- ・生産出荷量及び出荷者の増加

40 今市地区まちづくり推進委員会(四つ葉振興会)

事業名 課題解決特別事業

出ないと“もったいない”だれでもできる運動教室

P

事業の目的

◎閉じこもりがちで地域活動に消極的になりがちな高齢者層に新たな目的縁を創設する。

見込まれる成果・効果

◎年齢相応に健康で楽しく暮らせる日常から、生き甲斐や居甲斐が生まれ自らが楽しみながら関わる地域活動等の機会が増える。

○運動教室という新たな目的縁により参加者相互の参加一声かけ等で希薄になりつつある地縁の下げ止まりに期待できる。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

【きっかけづくり】

- ・過去の旭健康づくり教室(市主催)参加者の参加意識の聞き取り
- ・近隣の既存体操グループとの共催協議

【動きづくり】

- ・社協サロンの顔馴染みの体操講師に指導依頼と調整
- ・毎月第1、第3火曜19時30分から実施(全24回)
- ・地域に教室開講の放送案内

【まちづくり実践活動の姿】

- ・自主的に運動を生活の一部に取り入れ、意欲的な暮らしリズムの中で地域活動に参画する。

D

【事業の概要】

○椅子座位によりゴムバンドやボール、ポールを使い腕・膝の屈展、屈曲、脚上げ、前傾、足首の屈曲、背筋等上肢下肢の運動をスロースピードでする。

- ・4月延べ30人(内男性0人)
- ・5月延べ30人(内男性0人)
- ・6月延べ15人(内男性0人)
- ・7月延べ27人(内男性6人)
- ・8月延べ28人(内男性2人)
- ・9月延べ30人(内男性5人)
- ・10月延べ31人(内男性5人)
- ・11月延べ32人(内男性6人)
- ・12月延べ33人(内男性5人)
- ・1月・2月・3月



17回実施 延べ256人(内男性29人)

7月1日現在:今市地区65歳以上458人(内男性191人)

C

【成果・課題】

- ・参加者同士が声を掛け合い徐々に参加者が増加している。
- ・地域行事への参加者に教室内での馴染みの顔ぶれが多くなった。
- ・参加者の笑い声が教室開催ごとに増え表情が明るく見え、心理社会的健康の大切さが覗かれる。

A

【改善点】

- ・夫婦参加等を更に進め男性陣を取込む必要。
- ・健康づくりは自己に還元されるばかりではなく、地域全体の財産だと気づくようなアピールが必要

41 今市地区まちづくり推進委員会(四つ葉振興会)

事業名

課題解決特別事業

坂本米販売事業

P

【事業の目的】

- ・坂本地区の農地（水田）の保全。
- ・生産者の所得の安定化（管理費用に見合った収入の確保）。
- ・生産者のモチベーションアップ（生産意欲の向上）。

【見込まれる成果・効果】

米の生産や農地の管理にかかるコストに見合った収入が得られることで、農業者のモチベーションが維持できるようになる。また、農地が農地として維持されることにより、坂本地区の景観が保たれ、集落の持続に繋がる。



入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

【きっかけづくり】

- ・まちづくりフォーラムの実施
- ・試食イベント実施
- ・シンクタンクとの協議

【動きづくり】

- ・企画会議の実施、米袋製作
- ・ふるさと寄附への出品
- ・県大 COC 事業(食味調査)
- ・キヌヤでの販売・PR 実施
- ・インターネット販売

【まちづくり実践活動の姿】

- ・自主財源による事業の拡大
- ・地域住民による販売体制
- ・農業従事者の維持・確保

D

【事業の概要】

- 企画会議の開催（7回）
米袋の製作、販売先等の検討
- 浜田市ふるさと寄附返礼品への出品
- 旭ふる里まつりでの PR 販売の実施
- 島根県立大学 COC 事業との共同研究
仁多米と坂本米の食味調査の実施
大学生による農業体験（稲刈り・脱穀等）
食味調査報告会の実施（H28.12.18）
- キヌヤでの PR 販売の実施
店頭での試食販売を実施（H28.12.22）
店舗での取り扱いも開始
- 楽天サイトへの出品



企画会議の様子



オリジナル米袋



食味調査報告会



キヌヤでの PR 販売

C

【成果・課題】

- ・ふるさと寄附において、予定量を年内に完売した。
- ・営業や経理、販売備品の製作、配送など生産者がそれぞれ特技を活かした連携が作れた。
- ・手探りの中での事業展開であったが、「やってやれないことはない」という自信につながった。
- ・食味調査報告会を坂本地区で行い、地域住民への関心を高めることができたが巻き込みは不十分だった。
- ・お米の特色を踏まえた顧客開拓ができなかった。

A

【改善点】

- ・計画的な事業（PR など）の実施
- ・生産者の参加拡大
- ・地域住民の協力者の拡大（巻き込み）
- ・自主財源による経営の確立
- ・お米の特色を踏まえたターゲティング

42 和田地区まちづくり推進委員会

事業名 課題解決特別事業

健康増進・増強事業

P

事業の目的

- ・自分の健康状態に応じたスポーツに触れ合うとともに、幅広い世代住民の交流と心と体の健康を維持・増強する。

見込まれる成果・効果

- ・健康づくりの場を提供することで元気で豊かに暮らせる高齢者が増加し、農業生産力の維持・向上できる。また、地域活動の担い手の確保ができる。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ・人口減少・高齢化の対策をたてる話合いの場づくり。

動きづくり

- ・総務企画部会、健康スポーツ部会の開催。
- ・公民館との連携、協力。
- ・各行事の開催。

まちづくり実践活動の姿

- ・地域活動の担い手の増加。
- ・元気な高齢者の増加。
- ・地域の生産力の維持、向上。

D

事業の概要

- 健康スポーツ部会議（12/31 現在 4 回）：下記活動について協議。
- 公民館との連携。

↓ 和田地区民運動会

- グラウンドゴルフ @H28.5.29 旧和田小学校校庭
参加人数 27 名。女性の参加者増めざし女性の部をつくる。

- 体力テスト @H28.7.12 旧和田小学校体育館
参加人数 20 名。中学校へ参加呼びかけをする。

- 和田地区民運動会 @H28.10.23 旧和田小学校校庭
参加人数 211 名。9/21 運動会準備委員会開催。（運動会役員）
中学生が運営補助にあたる。子供から高齢者までが楽しめる競技を工夫。

- 健康ウォーキング @H28.11.6 和田地区内歴史Aコース
参加人数 19 名。地区内の新コース作成。（公民館事業マップづくりと連携）
事後アンケート実施。



C

成果・課題

- ・全活動参加者 218 人目標が、今年度 277 人に増え交流できたが、今後も参加者増加にむけて健康づくりの内容に協議が必要である。
- ・健康ウォーキングのマップづくりにあたり、県大生、中学生、地域の方、公民館と交流でき和が広がった。今後のコース作成等にマップを生かした協議が必要である。

A

改善点

- ・各行事の呼びかけ方法や内容等部会で協議する。
⇒幅広い世代の参加者の増加や交流の拡大に向けて。

43 和田地区まちづくり推進委員会

事業名 課題解決特別事業

地域及び産直の認知向上事業

P

事業の目的

- ・和田地区のまだ知られていない良さを地区内外の新たな目で教えてもらう。
- ・和田地区の特産物を産直目的以外の方へも認知向上する。

見込まれる成果・効果

- ・和田地区の交流人口増加や地区定住。
 - ・地区の農産物の良さや地域ブランドを理解してもらってビジネスに貢献。
- 生産者の意識向上や若い新規生産者の増加、現農地の維持保全、高齢者の生きがいづくり。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ・生産者の考えの把握。
- ・生産者とまちづくりの話し合いの場づくり。
- ・地区の未発見の良さの発見。

動きづくり

- ・産直会議、総務企画部会の開催。
- ・フォトコンテストの開催。
- ・ふるさとまつり(わの市)出店。
- ・地区情報の発信。(HP・FB)

まちづくり実践活動の姿

- ・地区の交流人口増と地区定住。
- ・農産物の地域ブランド化。
- ・高齢者の生きがいと若い新規生産者の増加。

D

事業の概要

- 総務企画部会議(毎月1回)、産直会議(12/31 現在4回): 下記活動について協議。
- ホームページ・Facebookで各行事や地域の様々な情報を発信。

○旭ふるさとまつり 2016 @H28.11.13 旭支所
地区内生産者と連携協力し、わの市出店。

参加生産者(団体)数合計7件。昨年度と比較して売上増。

○フォトコンテスト⇒現在進行中

秋の部: H28.10.1~12.31 賞品: 重富のお餅

冬の部: H29.1.1~3.31 賞品: 戸川のお茶

春の部: H29.4.1~6.30 賞品: 和田の桃

夏の部: H29.4.1~9.30 賞品: 本郷の椎茸

※秋の部は、H29.1月の総務企画部会で審査予定。

⇒HP・FB・広報誌“ピーチ”で発表後、最優秀者へ賞品発送。

↓旭ふるさとまつり



C

成果・課題

成果・課題については、まだ進行中の為でていない。

A

改善点

改善点についても、結果が出ていないため不明。

44 都川地区まちづくり推進委員会

事業名

課題解決特別事業

環境維持管理省力化事業

P

【事業の目的】

校庭をはじめとする公共施設や農地などの維持管理を省力化し、高齢化や人口減少が進むも、地域全体で環境の維持できる体制を作る。

【見込まれる成果・効果】

公共施設や農地の維持管理の簡素化や省力化が図られ、地域の環境保全と高齢者の健康維持が両立される。

（地域活動の簡素化・省力化）



入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

【きっかけづくり】

- ・高齢者クラブの協力により小学校閉校後の校庭の除草作業を行ってきたが、体力低下により継続が困難に。

【動きづくり】

- ・動力散布機の購入及び除草作業の実施（地域運動会や盆踊り、キャンプ等の準備作業が省力化）

【まちづくり実践活動の姿】

- ・高齢者クラブの活動が継続され、健康維持と生きがい生まれる。
- ・農地管理も省力化され、高齢者の負担が軽減される。

D

【事業の概要】

動力散布機を購入し、まちづくり推進委員会主体による校庭の管理を行った。さらには農家に貸し出し、除草作業の飛躍的な簡素化も計画した。



動力散布機



除草作業の様子



C

【成果・課題】

- ・導入により地域活動の簡素化が図れた。
- ・しかし、導入した時期もあって、農家への貸出は実施できていない。

A

【改善点】

- ・引き続き校庭など公共施設の除草作業の省力化を図り、今後は農家へも広く周知し、動力散布機の有効活用を図る。

45 杵束地区まちづくり推進委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

～天空の巨大自然岩展望台と柿本人麻呂の契り岩伝説を訪ねて～

P

事業の目的

- 杵束地区の隠れた名所、旧跡の掘り起こしとこれらの連結。
- 弥畝山風力発電所との一体的なスポットの周知と活用を図る。
- 過疎化・高齢化が進む田野原地域のてこ入れと新たなコミュニケーションツールとする。

見込まれる成果・効果

- 来訪者の増加や交流人口の拡大。
- 旧田野原分校跡地に開店した韓国豚肉料理専門店「マンナム」とのセットで双方に有益な人の流れを作ることができる。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ・浜田市お宝大募集に応募
- ・田野原分校跡地利活用とのマッチング

動きづくり

- ・委員全員で現地踏査
- ・現地踏査を踏まえた事業実施の合意
- ・地元田野原の協力取り付け

まちづくり実践活動の姿

- ・事業応募と採択
- ・看板の表記内容協議
- ・挿入するイラストの依頼
- ・看板発注（発注済み）

D

事業の概要

- 大鹿山自然展望台（巨大岩）手前に 180 度パノラマ写真を貼り付け、遠方に見渡せる津和野の青野山、山口県須佐の高山、益田市街地、美都温泉、高島、三隅火力発電所、御部ダム、大麻山等の位置を示した看板作成（道案内看板含む）
- 柿本人麻呂と依羅娘が固い契りを交わしたが、叶わぬ悲恋に終わって待ち焦がれた依羅娘子が岩に変身し、その後結婚の神とあがめられるようになったという伝説の岩の説明看板作成。
- 山中の歩道路開設（木や笹の伐採）
- 展望台への簡易な昇降路の設置

これとは別に、契り岩前に榊の木の移植や鳥居建立等、云われの復元を将来計画している。（本事業対象外）



C

成果・課題

- 追加募集採択のため、建柱時期は雪解け時期を予定しており、事業実施中。
- 今後公民館が実施する集落巡りウォーキングや新たに山を活用したイベントを企画していきたい。
- 当まちづくり推進委員会が実施している出会い支援事業にリンクさせ、カップル誕生、定住に結び付けたい。

A

改善点 事業実施中



46 岡見地区まちづくり推進委員会

事業名 課題解決特別事業

買い物弱者対策事業 わくわくマーケット

P

《事業の目的》

- ◇ 地域内に買い物をする場所がなくなり、困っている人たちを助けたい
- ◇ 地域の憩いの場や交流の場をつくる
- ◇ 生きがいづくりのための‘ものづくり’（生産活動）

《見込まれる成果・効果》

- ◇ 交通弱者の方を中心とした買い物支援となる
- ◇ 集まる場ができることで地域の情報が共有できる
- ◇ 引きこもり防止 ⇒ 買い物に行くのが楽しみになる ⇒ 生活に張りが出る



にこにこサロン

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

～きっかけづくり～

岡見地区唯一のスーパーマーケットの閉店により、交通手段を持たない高齢者が食料品や日用品等の買い物が困難になった

～うごきづくり～

- ・ 総会や各部長会議等において買物支援対策の検討
- ・ 店舗貸付（JA）や移動販売（町内スーパー）との協議

～まちづくり実践活動の姿～

- ・ 週1回のマーケット開催
- ・ 地域の農産物等の販売
- ・ 公民館での活動中の方へ声かけ、要望聞き取り

D

《事業の概要》

- 平成27年6月 先進地視察（雲南市中野地区・波多地区、浜田市旭町木田地区）
8月 全戸アンケートの実施（471戸配布、回収率79.6%）
9月 ワークショップ、検討会議（7回）
12月 わくわくマーケット オープン（移動販売のみ）
平成28年4月 農産品等の販売開始
6月 リニューアルオープン（日用品販売開始、専属販売員の配置）
11月 1周年記念感謝祭の開催（抽選会）



移動販売の様子



店舗内の様子

☆ 月に1回のマーケット会議開催 ☆

C

《成果》

- 食料品等の買い物が便利になった
- 高齢者の安否確認ができるようになった
- 週1回の集う喜びを感じてもらえる
- 運営スタッフの地域への関心、想いが高まった

《課題》

- ① 遠方の人が来られない
- ② マーケットの実施を知らない人がいる
- ③ 品数が少ない
- ④ 運営組織の在り方（運営スタッフの確保）
- ⑤ 開設日時の検討と旧店舗空きスペースの活用

A

《改善点》

- 課題①…交通対策の検討（購入物の配達、希望者の輸送等）
課題②…広報の強化や各集落での呼びかけ
課題③…加工品を製造販売している人に出品をお願いする（地域内、町内）
加工品製造販売の研修会を実施
わくわくマーケットでの販売用の野菜作り（契約農家をつくる）
課題④…先進地視察を実施（無理のない協力体制の構築）
課題⑤…イベントや教室の同日開催

47 岡見地区まちづくり推進委員会

事業名 課題解決特別事業

源田山整備事業

P

《事業の目的》

- ◇ 1年を通して登山に親しめる環境づくり
- ◇ 地域の歴史を後世に伝える

《見込まれる成果・効果》

- ◇ 山好きな方による登山者の増加
- ◇ 健康づくりの一環としての活用
- ◇ 園児・小中学生の地域への愛着が強まる



源田山の頂上にて

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

～きっかけづくり～

平成14年地元有志により登山道整備をしたが、年々高齢化や人口減少が進み、手つかずの場所の整備や現状の維持が難しくなった。

～うごきづくり～

地元自治会や他集落の有志の協力により、年2回の草刈りを実施。また平成26～27年に登山道の一部と頂上の伐採を行った。

～まちづくり実践活動の姿～

- ・ のろしりレーにあわせた登山イベントの実施。
- ・ 源田山に伝わるうわばみ伝説を紙芝居により多くの方に知ってもらう。

D

《事業の概要》

平成28年 関係者による打ち合わせ
6月 現地見
7月 地元自治会による草刈り
7～9月 所有者確認・伐採許可・行政への申請
10月 伐採、歩道整備
地元自治会、地域有志による草刈り
のろしりレーの実施
食生活改善委員＋地区福祉推進協議会
＋地域有志による昼食ふるまい



伐採前



伐採後



作業の様子

C

《成果》

- 頂上付近の景観が良くなった
- 道が良くなり高齢者が参加しやすくなった
- イベントは文化遺産を守る会の主催だが、それ以外の各種団体を巻き込んだ取り組みとなり、多くの世代が楽しめた

《課題》

- ① イベント自体が継続するための工夫
- ② イベント以外での登山者へのアプローチ
- ③ 下山箇所・夫婦岩付近の整備
- ④ 順路の表示や休憩箇所のベンチ等の設置

A

《改善点》

- ・ 健康づくりのPRによる参加者の確保
- ・ 各種イベントとのタイアップ
- ・ 山の愛好家へのPR
(広報活動、掲示板など)
- ・ 小学校とのタイアップ(歴史学習)
- ・ 整備に向けた有志の確保

48 三隅地区まちづくり推進委員会

事業名 浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

ふれあって にぎわいのあるまち～三隅つつじの郷づくり

P

事業の目的

三隅公園は、中国地方屈指のつつじの名所となっているが、地域の活力の衰退等で参観者が減少し、観光協会のイベントになっている。

この度、当まちづくり推進協議会が、**三隅つつじ祭り**を盛り上げ、観光客を増大させるための『仕掛け』を行い、地域の団体の連携を深める。

見込まれる成果・効果

住民が一体となり、観光客を迎えるための行動、活動をとおして、今後、各イベント等に率先して参加する人を一人でも多く育てる。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

・まちづくり推進協議会総会
その他事案時において「**三隅つつじ祭り**」の活性化案が出され検討した。

動きづくり

・早速、実行委員会が結成され、当協議会の既存の各部に事業を分担した。
・島根県にも働きかけた。

まちづくり実践活動の姿

・5/3.4.5の「**三隅つつじ祭り**」における、おもてなし、出店の取組み
・広報の定期発行

D

事業の概要

- (1) 実行委員会の結成
- (2) 「**三隅つつじ祭り**」に係る環境美化[感謝の気持ち]
 - ① ぼんぼりの作成、幟旗の作成、歓迎ボードの作成
 - ② 三隅公園から龍雲寺公園へのシャトルバスの運行
 - ③ 未植栽地域へつつじの植栽をして三隅のつつじをアピールする
 - ④ R9 峠田宅前の竹林伐採の陳情(国道より三隅公園が見えるため) 等
- (3) 三隅兼連と南北朝に係るセミナーの開催[共通の学び]
 - ・三隅学セミナーの開催（三隅神社等）等
- (4) 三隅地区まちづくり推進協議会構成団体等の学びと情報の発信
 - ・キャッチフレーズ又はシンボルの作成 等

C

成果・課題

・本事業は、2ヵ年計画であり、現在1年目である。
・本事業は、三隅地区全体で盛り上げるものであるが、どうしても役員や部員のための動きになっている。
・時折りしも当協議会の実行委員会が立ち上がったときに、観光協会の声かけで「三隅つつじまつり実行委員会」が設立された。ここの関係。

A

改善点

・まちづくり推進協議会広報の定期、かつ、多様な発信
・まずは、役員から楽しむ。
・三隅地区内の自治会連携の強化
・三隅地区内の関係団体活動の充実

49 黒沢まちづくり委員会

事業名

地域の生き残り対策事業『心の過疎からの脱却』

P

事業の目的

このままでは地域が消える・・・という危機感を共有する必要がある。
先が見える。打つ手がない。といった心の過疎。マイナスイメージから、少ない人数であるがゆえに地域の総力戦で時代に対抗しなければ勝ち目は無い。
欲張って多くの事業や見えの良いことより今、なんとか取り組んでいる事業すら危ない状況なのでそこへみんなで集中して事業を成し遂げる必要がある。
見込まれる成果・効果
地域内の合意形成と自らできることに挑戦しようとする姿勢が生まれることに期待ができそう。
地域外からの来場者を迎えることに対して、会場や周辺を綺麗にしなければ・・・という気運が生まれた。
(ボランティア活動で60人など)

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

何もしなければ地域が消える
・・・話し合い
地域出身者にふるさとのPR
・・・帰省(帰郷)を促す
地域を荒廃させては暮らせない
・・・この地で生きる術を見つけよう

動きづくり

○危機感を共有するための合意形成づくり
○『かっぱランド夏祭り』実行委員会の立ち上げ HP『黒沢ベース』で広く周知
○メディア(山陰中央新報)でPR
○ホースターの掲載やケーブルテレビで周知

まちづくり実践活動の姿

地域づくりの主役は地域住民である。
力を合わせて共同作業でイベントの開催。
○かっぱランド夏祭りの実施
○芸能祭・文化展の実施

D

事業の概要

【かっぱランド夏祭り】

- 6/6 役員会開催
- 6/22 実行委員会立ち上げ(3回)
- 7/30 会場整備
- 8/7 イベント実施
- 8/20 反省会の開催
- 消防署・三隅川漁協・島根県企業局・保健所・島根県河川部局等との事業説明と併行してPR活動、そして当日。その後振り返りを行った。
- 今回は参加者が約800人(内子どもが300人程度)・スタッフは74人体制そして、県大生及びリハビリテーション学部の学生を16人加えて安全面を第一義に実施した。



【芸能祭・文化展】

- 第一回目の実行委員会(12/8)を開催。出演依頼等を行っている。
- ※当地域では、習い事などの発表はゼロ。地域住民が、この日のために集落ごとに出し物をするのが特徴。

C

成果・課題

- 当初予定していた来場者(約300人)を大きく上回り、約800人の参加者があった。効果としては大きかったが、受け入れ側としては少し難儀な面があった。
- 地域民としての喜びは、他県からの来場者の声が好きだった。(「こんな小さな地域で素晴らしい活動をされるな」、「来年もまた来ます」との声・・・など多数の感想が寄せられた)
- 都会地の子供たちが大勢来ることから、子供たちの心に残る事業をまだまだ工夫する必要がある。(地域の力量に合わせて)

A

改善点

- 昼食(かっぱカレー)の提供に限界を感じた。他の食事対応を検討する必要がある。
- ふるさとに帰省された人々に、Uターンの気持ちが生み出せるようなイベントとして位置づけることが地域課題(人口減少)に繋がれば・・・という思いである。このような未来を描いています。

50 まちづくり推進委員会 IN0

事業名

井野地区特産品づくりによる地区内外の交流活性化

P

事業の目的

- ・ 特産品づくりをつうじて地区内交流の活性化を図る
- ・ 特産品づくりを基礎として井野地区への来訪者交流人口の拡大を目指す。
- ・ 特産品の商品化で六次産業化を推進し、地区内所得の向上に寄与する。

見込まれる成果・効果

- ・ 地区内で特産品づくりに取り組むグループの組織強化を支援しつつ、その特産品を活用提供する場を地区内のイベントなどで情報発信し、広く周知を図ることで、認知度を高め、交流人口の増加に資する。

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ・ ワーキンググループの自発性の尊重
- ・ 若年層や女性の参画強化

動きづくり

- ・ ワークグループの進捗状況報告会で情報共有
- ・ 先進地視察
- ・ 試作品販売等で市場調査

まちづくり実践活動の姿

- ・ 本事業の推進
- ・ 事業展開の周知努力
- ・ グループ活動による、交流人口の増加と経済活動の循環

D

事業の概要

- 4月 ・ 行動計画書作成
- 5月 ・ ワークグループの合同会議
- 6月 ・ 合同先進地視察&視察振返りの会
 - ・ ピザ窯作りイベント開催
- 7月 ・ ピザ窯作り～ピザ焼体験イベント開催
 - ・ 夏まつり出店準備
- 8月 ・ そば撒き
 - ・ 夏まつり出店
- 9月 ・ 炭窯見学 ・ そば幟旗作成
- 10月 ・ ピザ焼/ピザ窯視察 ・ そば収穫

○11月 農業まつり出展店
(そば・ピザ・漬物等各グループ品)

○12月 いのイルミにてピザのふるまい



C

成果・課題

・ 特産品づくりを通じて井野地区での米以外の農業生産活動を活発にし、地区外との交流人口を増やすことで、特産品の認知度を高め、品質の確かさを実感していただき、販売促進につなぎ、やりがいや生きがいの向上に寄与する。

A

改善点

・ 特産品づくりが地区内の共通課題であることの浸透力を高め、地区内の実行力及び総合力の強化を図る。